

合併に関する“質問”について考えてみましょう。～その4～

少子・高齢社会を生き抜くために「足腰の強い自治体」の必要性は誰もが感じているはずです。

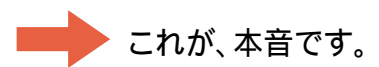
私たちは、子どもたちに“美しいふるさと”を引き継ぐため、“今”市町村合併について真剣に考える責任があります。

合併が、これからの社会を担っていく市町村をつくるうえで有効な手段であるということは、誰もがわかっています。

県内では、「合併をしない」と宣言した市町村もいくつかあります。

しかし、その中には、生活圏や地形的な問題から、合併を選択することができない市町村が多く含まれるのが現状です。

地形的な条件から、合併を選択できない。
しかし、将来を考えると、合併をした方が良いに決まっている。



私たちの住む地域はどうでしょう？ 「地形的にも問題なく、生活圏も一体化しています」

Q1

「生活圏」の同じ市町村が合併することに、どんな意味があるの？

例えば…

「住んでいるまち」と「買い物をするまち」が違う場合～

- ・あなたの買い物によって使われたお金は「買い物をするまち」のために使われることになります。

合併して、一つの「まち」になると～

- ・あなたの買い物が「あなたの住んでいるまち」への還元につながっていきます



市町村の区域と、そこに住む人たちの生活圏・経済圏が異なっていることにより、「広域的な行政サービス」の提供に支障が出てきています。

住民の生活実態に合わせたサービスの提供を行える市町村が必要となっています。道路を例にとってみても、これまでは市町村の区域の中で、事業を実施していましたが、合併してひとつの市になることにより、生活実態に合った利便性の高い道路整備を効率的に行うことができます。

市町村合併により、私たちの生活全体が「私たちのまち」の活力となります。